

報告会プレゼンテーション資料

〈令和4年度〉

観光分野

農業分野

福祉分野

若者分野

子育て分野

〈令和5年度〉

女性活躍分野

障がい者スポーツ分野

ものづくり分野

文化分野

子育て分野

環境分野



旭川未来会議 2030

観光分野テーマ

観光客の誘客に向けた 取組について

2022年11月1日
観光分野

1

観光分野が考える2030年の旭川のあるべき姿

世界中から訪れたくなる旭川

あるべき姿を考えた理由

- ・今よりもわくわくするような観光の取組が行われている旭川を目指していくため。
- ・観光客だけではなく、市民も、住んでいて楽しめる街が作られるため。
- ・旭川に関わる全ての者が連携し、あらゆる分野が一体となって観光振興を推進するため。
- ・新型コロナウイルス感染症が収束し、世界中でこれまで温められてきた観光熱が一気に爆発する時代になっていると想像できるため。

2

観光地としての旭川市の特徴

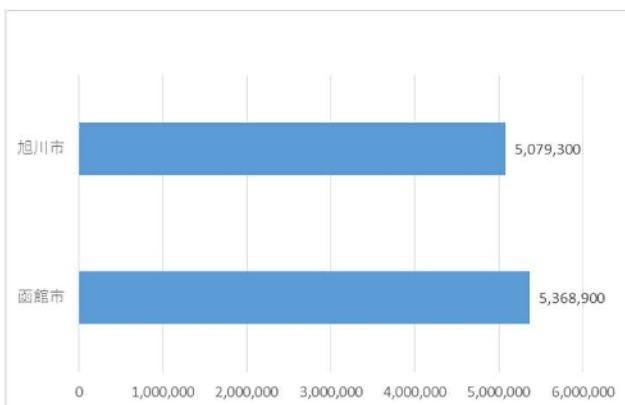
- ・ 大雪山国立公園の恵みを受けた自然環境を最大限に活かした産業
- ・ 中核市としての都市機能
- ・ 北海道の重要な交通結節点，旭川空港によるアクセスの利便性と高い就航率
→ 新鮮かつ豊富な食材など物流の集積地
- ・ 高い知名度を誇る旭山動物園
- ・ 世界最高水準の質を誇るパウダースノー

観光客にとっての魅力は山ほどある！

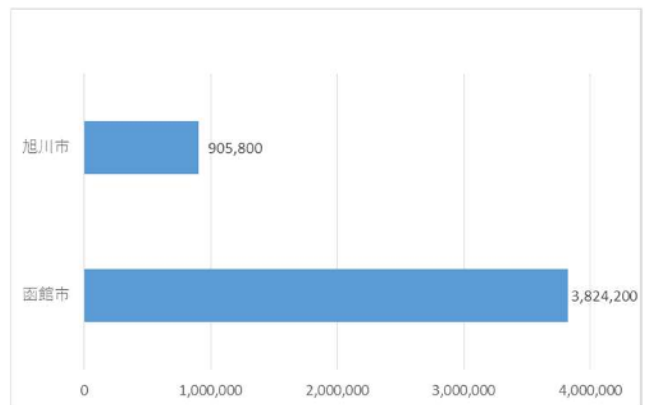
3

観光入込み客数と宿泊延べ数（令和元年度）

観光入込み客数



宿泊延べ数



同じ北海道にあり中核市として都市規模も同等の函館市と比較した場合...



入込み客数が変わらないのに宿泊延べ数は函館市の1 / 3

4

旭川市季節別観光入込客数（令和元年度）の解決策

函館に比べて宿泊したメリットを活かせる観光コンテンツが少ない



旭川に泊まってもらう取組 (朝と夜を中心にした商品造成)

5

旭川市季節別観光入込客数（令和元年度）



繁忙期（夏季シーズン）と閑散期（冬季シーズン）の差が大きい！

6

旭川市季節別観光入込客数（令和元年度）の解決策

1 1月～4月（冬まつり期間を除く）の観光客が落ち込む



1年中楽しめる観光地としての 観光コンテンツの開発

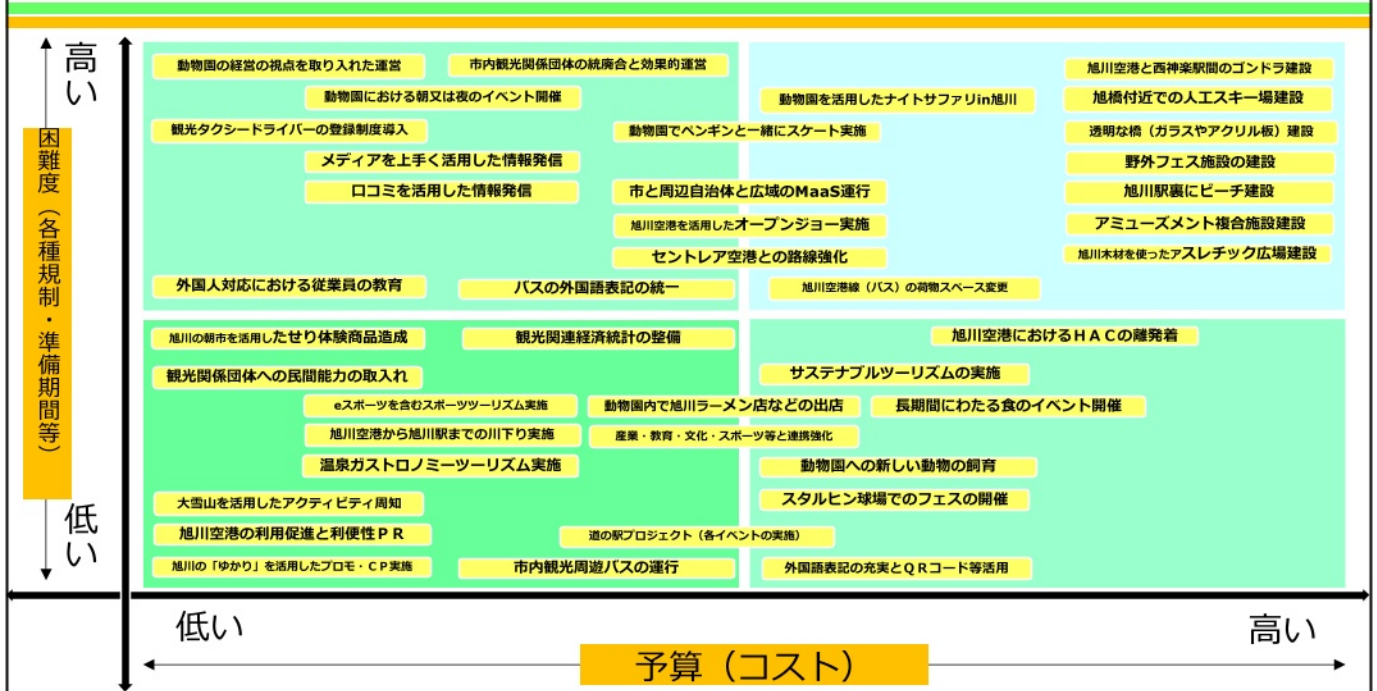
7

観光客の誘客に向けた取組の委員発言内容まとめ



8

観光客の誘客に向けた取組を予算と困難度から表したマトリックス



9

意見 (重点的な取組①)

| 意見等の内容 | 説明 |
|-----------------------|---|
| 道の駅や市場などを活用した朝活プロジェクト | 朝の時間を含めて、道の駅や市場を活用したイベント、朝市、観光ツアーなどを開催する。 |



10

意見（重点的な取組②）

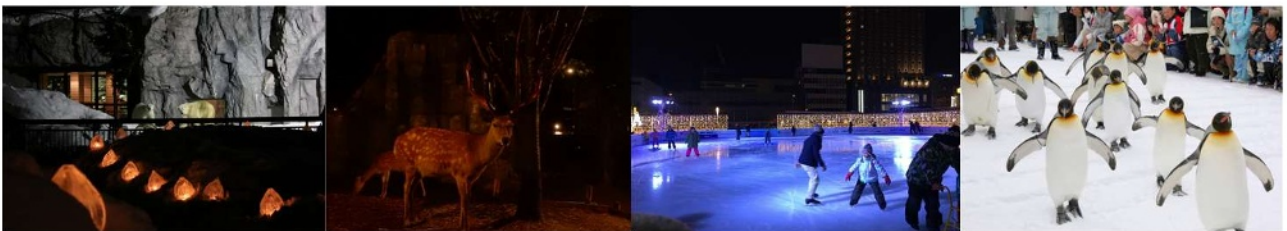
| 意見等の内容 | 説明 |
|-----------|--|
| 旭川駅南の観光地化 | 旭川駅の南側にビーチを建設し、スラックライン設置、川下り、雪遊び、雪合戦などを行う。 |



11

意見（重点的な取組③）

| 意見等の内容 | 説明 |
|------------------------|---|
| 旭山動物園における体験型アクティビティの充実 | ナイトサファリの開催やペンギンと一緒に滑ることができるスケートリンクの設置などを行う。 |



12

意見（検討すべき取組）

| 意見等の内容 | 説明 |
|------------------|--|
| 1 バスやタクシーの受入体制充実 | バスの外国語表記の統一，タクシーやドライバーの事前登録・予約制度を導入する。 |
| 2 旭橋付近での人工スキー場建設 | 市内中心部にスキー場をオープンし，観光客が訪れ，気軽に体験しやすくする。 |
| 3 観光関係団体への民間活力導入 | 観光関係団体に民間人材登用などを積極的に進める。 |
| 4 大雪山を活用した取組 | 登山やスノーシュー等のアクティビティの充実と情報発信を強化する。 |
| 5 プロモーションの強化 | 旭川にゆかりのある企業や店舗を活用したプロモーション実施する。 |

13

意見（検討すべき取組）

| 意見等の内容 | 説明 |
|---------------------|-------------------------------------|
| 6 コンシェルジュの育成 | 旅マエや旅ナカで観光案内をしてもらうことができる環境を整備する。 |
| 7 温泉ガストロノミーツーリズムの実施 | 1市8町圏域で食と温泉を用いた温泉ガストロノミーツーリズムを実施する。 |
| 8 広域でのM a a Sの運行 | 1市8町圏域で二次交通の充実に繋がるM a a Sの運行を行う。 |
| 9 情報発信の強化 | 口コミやメディアを上手に活用した情報発信する。 |
| 10 フェスの実施 | スタルヒン球場などで野外フェスを実施する。 |

14

参加者からのその他の具体的意見

- サステナブルツーリズムの実施
- スポーツ（リアルとeスポーツ）の活用したスポーツツーリズムの実施
- 旭川木材を使用したアスレチック広場の建設
- アクリル板などによる透明な橋の建設
- アミューズメント複合施設の建設
- 旭川空港の利用促進・利便性PR強化，HACの発着誘致，セントレア空港との路線強化，西神楽駅と連結するゴンドラ建設，道内空港と連携したオープンジョー，空港線の路線バスの荷物置き場移設
- 市内観光周遊バスの運行
- 外国語表記の充実やQRコードの活用による観光ガイド
- 産業，教育，文化，スポーツなど各分野との連携強化
- 外国人対応における従業員の教育
- 市内観光関係団体の統廃合や効率化
- 観光関連経済統計の整備

意見総数：41件（集約前の総数）

15

観光分野参加者

| 氏名 | 所属 |
|--------|---------------|
| 伊藤 公久 | 旭川ホテル旅館協同組合 |
| 井上 雅之 | 株式会社オーシャン |
| 大野 由加利 | 旭川観光物産情報センター |
| 柏葉 健一 | 旭川観光コンベンション協会 |
| 喜久野 夕介 | 旭川ふるさと旅行株式会社 |
| 菊原 洋樹 | 旭川シティホテル懇話会 |
| 椿谷 有海 | 公募 |
| 西野目 智弘 | 西野目産業株式会社 |
| 山崎 五良 | 男山株式会社 |
| 米谷 侑治 | 公募 |

(50音順・敬称略)

16

会議経過

| 日付 | 内容 |
|--------|-----------------------------|
| 7月 4日 | 第1回会議（観光客の誘客に向けた取組について意見交換） |
| 8月18日 | 第2回会議（観光客の誘客に向けた取組についてまとめ） |
| 10月14日 | 第3回会議（報告会向け資料作成） |



2030年 誰もが訪れたくなる旭川へ...

旭川未来会議 2030

農業分野テーマ

米プラスの産地づくり

－わたしたちが描く，2030年のあさひかわ農業－

2022年11月1日
農業分野

1

テーマについて

米プラスの産地づくり

－わたしたちが描く，2030年のあさひかわ農業－

旭川は北海道一の収穫量を誇る米どころ。しかしながら，米の消費が低迷しているほか，高齢化，担い手不足，コロナ，資材高騰等々，様々な課題に直面している。

こうした中で，旭川の農業をさらに発展させ，将来にわたって魅力ある産地づくりを進めていくため，米どころという強みに加えて，旭川の農業にとって「プラス」となる新たな取組や可能性について議論した。

2

農業分野参加者

| | |
|--------|-------|
| 鹿野 剛 | 清水 光子 |
| 川村 さくら | 高橋 直人 |
| 佐藤 絢也 | 谷越 亜紀 |
| 佐藤 まどか | 野崎 達也 |
| 佐野 敏子 | 守屋 大輔 |

(50音順, 敬称略)

- 農業者
- 市場関係者
- 公募者

平均年齢 46.7歳

会議経過

| 日付 | 内容 |
|--------|-------------------------|
| 7月14日 | 第1回会議 (現状, 未来像について意見交換) |
| 8月31日 | 第2回会議 (具体的な取組について意見交換) |
| 10月17日 | 第3回会議 (報告会向け意見整理, 資料作成) |

3

現状を知る ~SWOT分析の結果~

米プラスの産地づくりというテーマに対し, どうアプローチしていくかを整理する目的で, あさひかわ農業の現状について項目ごとに分析

強み (Strength)

- ・多品目栽培
- ・旭川出身著名人の存在
- ・米づくりが盛ん
- ・高い栽培技術
- ・新規就農者の育成
- ・寒暖差が大きい
- ・都市 (消費地) に近い
- ・流通, 交通の利便
- ・クリーン農業の取組
- ・災害が少ない 等

弱み (Weakness)

- ・高齢化
- ・後継者, 労働力不足
- ・代表作物の目玉がない
- ・知名度が低い
- ・商品プロデュース力が弱い
- ・農業生産量, 生産額の減
- ・JAが分散している
- ・販路が少ない 等

機会 (Opportunity)

- ・水資源など豊かな環境
- ・温暖化による生産可能作物の拡大
- ・北海道ブランド
- ・PR機会増
- ・農業への関心の高まり
- ・北海道の真ん中 等

脅威 (Threat)

- ・高齢化, 人口減少
- ・温暖化に伴う異常気象
- ・コロナ
- ・安く新鮮な輸入農産物の広がり
- ・世界情勢変化
- ・糖質制限 (米の消費減)
- ・機械化による資金負担増
- ・国の制度変更(水活)
- ・資材, 肥料, 輸送等コスト増 等

4

農業分野が考える2030年の旭川のあるべき姿

**私たちが、次代の人たちが、
楽しく農業をし続けているまち**

5

あるべき姿：「私たちが、次代の人たちが、 楽しく農業をし続けているまち」を考えた理由

SWOT分析の結果を踏まえ、あさひかわ農業を将来にわたって持続的に発展させていくためには、まず、**旭川に目を向けて**もらい、あさひかわ農業の**ファンを増やしていく**ことが重要ではないか。

それを実現するには、何より2030年も私たちが、次代の人たちが**楽しく農業をし続けている**ことが必要である。

人は楽しそうにしていること・ところに興味を持ち、魅力を感じ、惹きつけられる。惹きつけられた人は、旭川に目を向け、知り、訪れ、あさひかわ農業や農産物のファンとなり、定着するという好循環が生まれると考えた。

6

あるべき姿を実現するための3つの視点と方向性

1 儲かる農業

生活が豊かであることによりモチベーションを維持し、楽しく農業を続けられる。そのためには新たなチャレンジも必要。

- ➡ ①新たな品目へのチャレンジや生産拡大
- ➡ ②無駄なく全て売り尽くす仕組づくり
- ➡ ③付加価値の向上

2 見（魅）せる農業

楽しいことを増やして、楽しんでやっている旭川の農業をたくさんの人に知ってもらおう。さらには一緒に楽しんでもらいたい。

- ➡ ④市内外へのアピール力強化
- ➡ ⑤生産者や生産現場を知ってもらうきっかけづくり

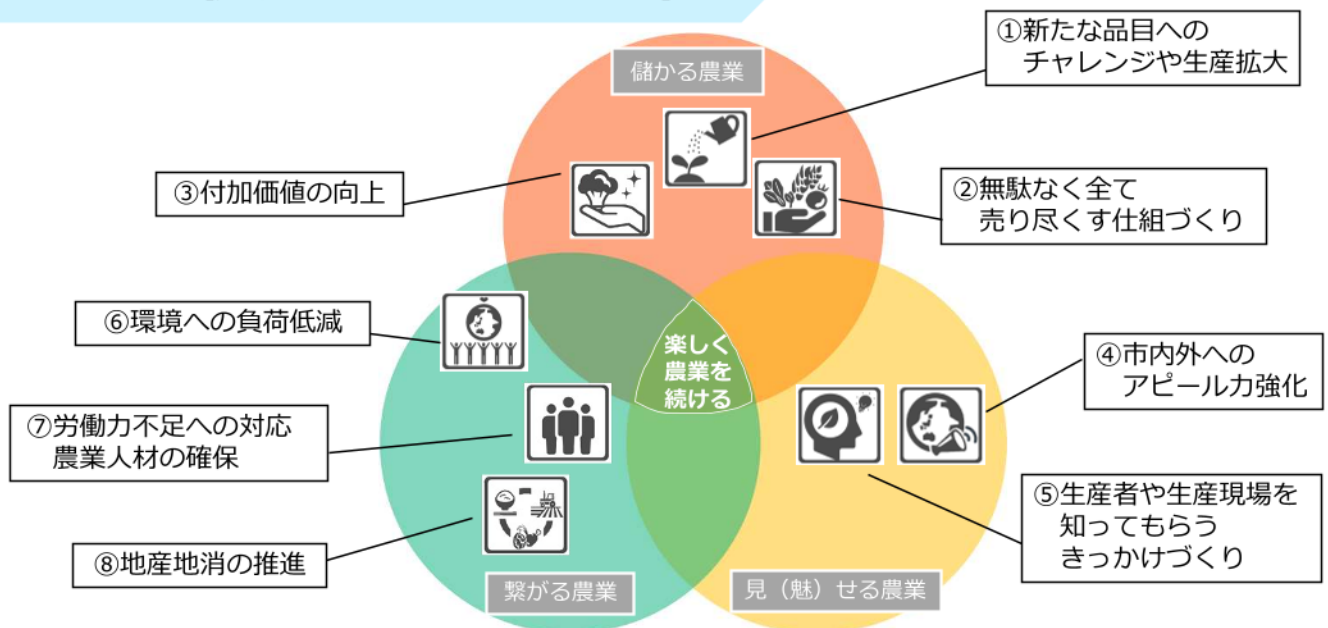
3 繋がる農業

世界情勢が大きく変化している今こそ、これまでのやり方や意識を変えていく転換期。それが農業者と消費者を繋ぎ、さらには未来へと繋がる。

- ➡ ⑥環境への負荷低減
- ➡ ⑦労働力不足への対応、農業人材の確保
- ➡ ⑧地産地消の推進

7

3つの視点と8つの方向性

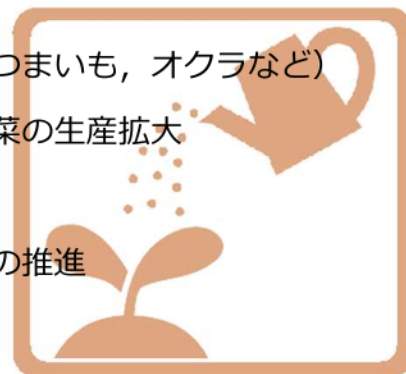


8

「儲かる農業」に関する具体的な取組

1 新たな品目へのチャレンジや生産拡大

- ✓ 新たに選定した高収益作物などの生産拡大（さつまいも、オクラなど）
- ✓ 競合相手が少なく、売れ行き好調な冬季栽培野菜の生産拡大
（寒締めほうれん草、雪の下にんじんなど）
- ✓ 多品目栽培や品質・収量向上のための基盤整備の推進

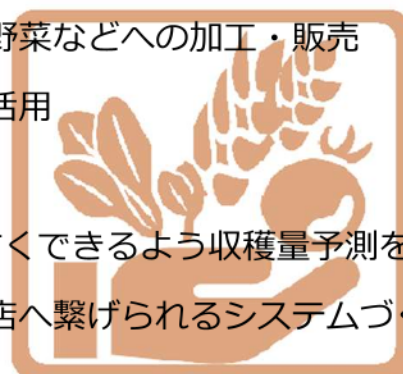


9

「儲かる農業」に関する具体的な取組

2 無駄なく全て売り尽くす仕組づくり

- ✓ 規格外野菜をカット野菜やセット（キット）野菜などへの加工・販売
- ✓ 廃棄しなければならない野菜（部分）を有効活用
- ✓ ECサイト等を活用した販路拡大
- ✓ 売る側（市場、販売者）が販売計画を立てやすくできるような収穫量予測を共有
- ✓ 農産物（余剰分を含む）を必要とする人やお店へ繋げられるシステムづくり



10

「儲かる農業」に関する具体的な取組

3 付加価値の向上

- ✓ 輸入品消費を抑えたり，国内外へ拡販を視野に入れ，旭川の農産物を冷凍野菜の原料として売り込む
- ✓ 差別化のためのネーミング（例えば，市民公募）
- ✓ 米の消費増を目指し，小麦価格高騰やアレルギー対応など注目度が高い米粉の利活用拡大（施設整備や製粉所利用料等への支援，製粉工場誘致など）
- ✓ 旭川の米や野菜を使用した菓子開発など
- ✓ 他業種（地元業者）とのコラボによる商品化



11

「見（魅）せる農業」に関する具体的な取組

4 市内外へのアピール力強化

- ✓ 市民広報誌など，保管性や視認性の高い紙媒体の特異性を活かした情報発信
- ✓ YouTubeやTikTokなどを含めたソーシャルメディアの効果的活用による情報発信
- ✓ 旭川ゆかりの著名人やインフルエンサーを起用したPR活動
- ✓ デザイン都市として，農業と旭川デザインプロデューサーなどとの連携
- ✓ タクシーやバスなど，公共交通機関を活用した旭川農産物のPR



12

「見（魅）せる農業」に関する具体的な取組

5 生産者や生産現場を知ってもらうきっかけ作り

- ✓ 米どころならではのイベント開催
(米プラス土俵づくり, 泥んこ相撲, 絵画コンクールなど)
- ✓ 体験型ふるさと納税返礼品の強化
(農産物+農作業体験の提供など)
- ✓ 実は身近にある農業や食の大切さを知ってもらうため,
子どもたちへ農業体験機会を提供



13

「繋がる農業」に関する具体的な取組

6 環境への負荷低減

- ✓ エコロジカルな素材活用や量り売りなどパッケージの見直し, 削減
- ✓ 消費者, 流通・小売業者を巻き込んだ
地球環境に配慮したパッケージへの理解醸成
- ✓ みどりの食料システム戦略を実践し, 持続可能な農業の実現



14

「繋がる農業」に関する具体的な取組

7 労働力不足への対応，農業人材の確保

- ✓ スマート農業のさらなる普及・拡大により，
農家のワークライフバランスの実現，就農へのハードル低減
- ✓ 営農の法人化で農業生産者をサラリー化することにより
農業への就業率アップ
- ✓ 今までの実績を活かした道内外からの
新規就農者確保，受入側の負担軽減



15

「繋がる農業」に関する具体的な取組

8 地産地消の推進

- ✓ 安心安全や価格安定などメリットが多い地産地消への理解促進
- ✓ 直売所やこども食堂など農家と消費者が直接つながる仕組みを構築
- ✓ 農家と地元業者（飲食業，製菓業，弁当製造業等）をマッチング
- ✓ 食の重要性を多くの人に伝え，将来のサポーターを増やす
(農業者による学校への出前講座など)



16

その他 こんな意見もでした

- ✓ 輸出を見越した作物の栽培及び品質が維持される冷凍技術等最新技術での加工
- ✓ 農家さん主催の料理教室やワンポイントレッスン
- ✓ 両者の課題を一緒に解決し、Win-Winな関係構築を実現する農福連携の推進
- ✓ 旭川を拠点として農業体験をしつつ、近隣町村の温泉を楽しむ
- ✓ 生産者を知ってもらって農作物を買ってもらえるように農家のホームページを作る
- ✓ 農協をひとつに！
- ✓ スマート農業の現状にあった技術革新
- ✓ 旭川の畑は一面、〇〇だけ！
- ✓ 朝ごはん給食で旭川産米のおにぎりを
- ✓ 地場作物の生食、惣菜、スイーツが1か所で楽しめる施設づくり
- ✓ 新庁舎での旭川の生産物を使った料理の提供、農業イベントの開催

17

未来会議 2030 農業分野に参加して ～感想～

- もっと農業について話したかった。
- 知らないことを知ることができ、楽しかったし、勉強になった。
- いろいろな角度から意見を聞くことができ、これからの農業経営における選択の幅が広がった。
- 会議で議論したことが全て実現できれば、将来私たちの後を担ってくれる人たちは幸せ。
- 作り手のこだわりなども知ることができ、今後、販売の仕事で生かせそう。
- 旭川市民、特に子ども達に旭川の農業は素晴らしいものだということを伝えていきたい。そうすることで、農業の土台ができると感じている。
- これからも、作っている方の気持ちをのせて、食事を提供していきたい。
- 農業を知れば知るほど好きになるし、みんなにも好きになってもらいたい。
- これから農業は宝物になっていくと思う。旭川市民が、農業は大事だと思うように繋がることができたら良いと思う。
- 作る側、売る側、食べる側の全員が幸せになるというのが、今回の会議の目的であったと思う。

18

旭川未来会議 2030

福祉分野テーマ

2030年の福祉分野のあるべき姿

～ 「誰もがその人らしく、普段の暮らしの中で『しあわせに生きる（福祉）』
ためのあたたかい『つながり』が育まれるまち」を目指して

2022年11月1日
福祉分野

0

旭川市の福祉を取り巻く現状について

- 人口：326,057人（R4.4）→ 302,619人（R12=2030年【推計値】）
- 総世帯数：155,625世帯【単独世帯数：61,540世帯】
単独世帯率：39.5%【※参考 全国平均 38.1%】（R2国勢調査より）
- 町内会加入率：56.0%（R4.4）

高齢者（R3.10）

<65歳以上人口（高齢化率）>
→113,050人（34.4%）
【高齢化率 全国平均 28.9%】

障害者手帳所持者（R4.3）

24,749人

[内訳] 身体 16,761人、
知的 4,590人、精神 3,398人

民生委員児童委員 766人（R4.3）

<平均年齢>
男性 70.6歳、女性 67.9歳

※参考 引きこもり状態にあるもの
【内閣府調査（H27・H30）】

15歳～64歳の3.02%
→R4.4本市人口換算 = 2,681人

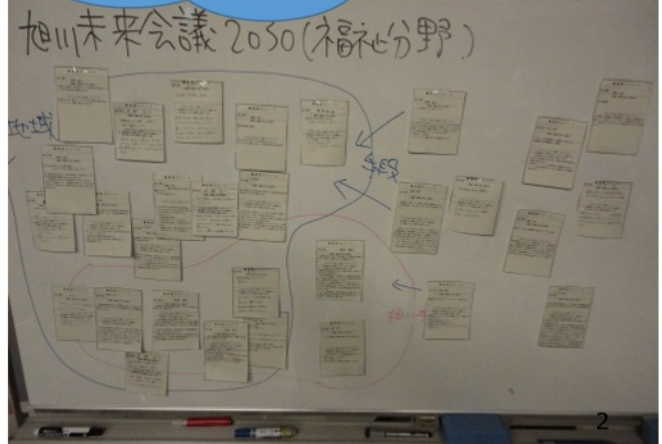
1

第1回分野別会議（課題に係る意見交換を実施）

障がいのある当事者同士で
支え合う場が少ない

世代間ギャップ等の理由で、
ボランティアや地域福祉活動の
停滞・硬直化が見られる

個人や世帯が抱える
福祉の課題が複雑・複合化し
既存の相談体制では
対応が難しくなっている



2

個々の課題の分類・整理を実施

| 課題 | 中分類 | 大分類 |
|----|--|---|
| 課題 | 住民の孤立化が進んでいる | 【繋がり希薄】 地域住民や当事者同士のつ ながりが希薄になってきて いる |
| 課題 | 当事者同士のつながりの場が少ない | |
| 課題 | 人口減少による影響 | |
| 課題 | コロナ禍による影響 | 【担い手不足】 地域福祉活動の担い手が不 足している |
| 課題 | ボランティアや地域福祉の担い手が固定化している | |
| 課題 | 地域（福祉）活動に関する若い世代の参加意欲が乏しい | |
| 課題 | 若い世代の地域（福祉）活動への参加には制約が多い | |
| 課題 | 福祉に関する住民理解の不足や世代間相互理解の不一致 | 【不十分な統合的支援体制】 地域住民の暮らしを統合的に 支援する体制が構築されてい ない |
| 課題 | 地縁組織等における機能や参加者に重複が見られる | |
| 課題 | 複雑化・複合化した課題を抱える個人や世帯が増えている | |
| 課題 | 既存の相談機関の体制では諸課題への対応が難しい | 3 |
| 課題 | 公的な福祉サービスの人手不足及びそれに伴う支援の質の 担保に課題がある | |

…全49件

3

福祉分野が考える2030年の旭川のあるべき姿

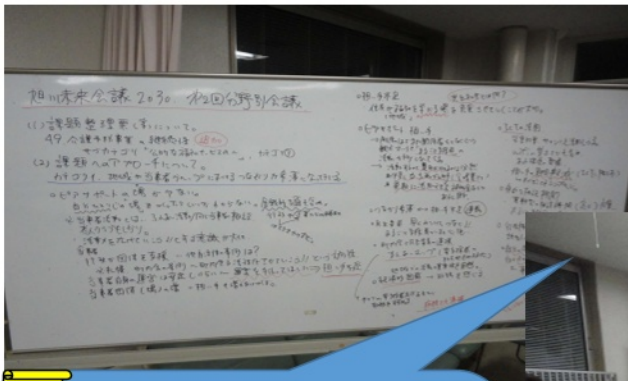
「誰もがその人らしく、普段の暮らしの中で『しあわせに生きる（福祉）』ためのあたたかい『つながり』が育まれるまち」

あるべき姿を考えた理由

- 個々で大切にしたいもの（幸せ・豊かなど）は異なるが、みんなが繋がり、その支え合いの中から、それらを互いに実現していくことをイメージした
- 旭川市は医療・福祉の社会資源が豊富であることは強みであり、その良さを生かしつつ、行政と地域住民が一緒に、みんなが抱える課題を解決していければと考えた
- いま支援を必要としている人を含め多くの人にとって、将来に希望がもてる言葉や表現で、あるべき姿を示したいと考えた
- 地域単位の繋がりや活動が充実することで、まち全体の福祉向上に繋がると考える

4

第2回分野別会議（課題解決に向けたアプローチを協議）



課題

繋がり希薄

従来の地域活動だけでなく、みんなで地域にとって必要な取組を考え活動することにより、繋がり必要性が実感できるかも

課題

不十分な統合的支援体制

「地域まるごと支援員」の役割を広く浸透させることが必要／市と関係機関が、住民からの相談を適切に繋ぎ合うことが不可欠

課題

担い手不足

担い手の負担そのものを軽減することや、コロナ禍を経て多様な活動の形を模索することが、若い世代等の担い手の確保につながるのでは

5

| | | |
|------------------------------|---|---|
| 課題 [再掲] | 課題解決に向けたアプローチ方法【意見総数：41件】 | 課題・アプローチを 踏まえた取組の方針 |
| 繋がり の 希薄 | <p>町内会の意義等を条例化して広く周知を行い、活動の活性化を図る</p> <p>既存の枠組にとらわれず、新しい町内会活動や近隣との助け合いの在り方について世代間で意見交換できる機会を設ける</p> <p>地域課題の取組を通じて住民の連帯意識が醸成された事例（支え合いマップ）を広め、各地域においてもそれぞれの取組を実施する</p> <p>子どもから大人まで地域福祉や地域共生社会を学ぶ場を設ける</p> | 「助けて」と言える・「なんもなんも」と助け合える居心地の良いつながりを地域の中で醸成していく |
| 担い手 不足 | <p>当事者団体・活動への人的・金銭的なサポートを充実する</p> <p>I C Tを活用し、地域福祉活動の事務的負担の軽減や拡充を図る</p> <p>地縁組織間で重複する役割機能を整理し、有機的連帯への再編を図る</p> | 『これまで』を大切にしつつ『これから』の持続可能な地域福祉の在り方を多世代で柔軟に学び・考え・活動する |
| 不十分な 統一的 支援体制 | <p>障害者が身近に相談できる窓口を拡充するとともに、地域まるごと支援員について地域住民レベルまで浸透させる</p> <p>行政においても、専門職員の配置や基礎的な相談技術や各福祉領域の知識・関係機関連携に係る研修等の実施により総合相談体制の充実を図る</p> <p>自主化に向けた動きのある認知症予防・体操教室について、今後も専門職の関わりを一定程度維持する</p> <p>在宅ヘルパー不足の解消等のため、有料老人ホームの施設数を需要に応じた供給量となるよう検討を行う</p> | 豊富な社会資源を活用し、行政と住民が一体となり、個人や地域が抱える困りごとをしっかりとめめる支援体制を築いていく |

未来会議2030に参加した感想・意見

第3回分野別会議



- 協議時間・回数が少ない→ 継続的な議論があると良い（児童や経済困窮分野からの参加もあると良い）
- 福祉分野の裾野は非常に広く、ポイントの集約や共通点を見つける難しさがあった
- 多くの気づきがあり、各分野の視点でリアルな課題を共有し、解決に向けた取組等を検討できて良かった
- 異なる立場で福祉向上を目指す皆さんの思いに触れ、前向きな気持ちになった
- 協議内容を地域福祉計画や具体的な取組に是非反映させてほしい。

福祉分野参加者（敬称略）

| | |
|--------------------|-------------------------|
| 石川 雅之（公募） | 高橋 通江（永山地域包括支援センター） |
| 神田 典行（旭川市障害者連絡協議会） | 高森 崇（旭川社会福祉施設協議会） |
| 五所 卓子（旭川大学保健福祉学部） | 玉田 昌嗣（旭川市老人クラブ連合会） |
| 高木 恵（公募） | 中島 寛之（旭川市自立支援協議会） |
| 高橋 糸子（旭川市社会福祉協議会） | 飛驒 晶子（旭川市民生委員児童委員連絡協議会） |

分野別会議協議経過

| 日付 | 内容 |
|--------|---------------------------------|
| 7月25日 | 第1回会議（旭川市の福祉分野における課題に関する協議） |
| 9月14日 | 第2回会議（課題の整理及びアプローチに関する協議） |
| 10月12日 | 第3回会議（これまでの協議の総括・報告会発表内容に関する協議） |

8

旭川未来会議 2030

若者分野テーマ

若者が考える 魅力あるまちづくりについて

2022年11月1日
若者分野

1

若者分野 参加者 ※五十音順 平均年齢 26歳

| 氏名 | 分野 | 所属等 |
|-------|----------------|--------------|
| 秋保里衣 | 経済 | 旭川信用金庫 |
| 池田七夕梨 | 中心市街地活性化 | (株)ここはれて |
| 加納光 | 公募参加者 | 学生(旭川大学) |
| 合原翔太 | スポーツ(eスポーツ) | 東日本電信電話(株) |
| 佐藤有沙 | 公募参加者 | 学生(旭川医科大学) |
| 高松治斗 | 公募参加者 | 学生(旭川大学) |
| 武田美紀 | 文化・芸術(音楽) | (株)カジノドライブ |
| 筒井和騎 | まちづくり全般 | 旭川青年会議所 |
| 沼澤雪菜 | ものづくり | 旭川家具工業協同組合 |
| 山田彩華 | スポーツ(スノボ・スケボー) | (株)ムラサキスポーツ |
| 吉見季里子 | 文化・芸術(デザイン) | (株)グリーンフォレスト |

2

会議経過

| 回 | 日時 | 場所 | 参加者数 | 議題・内容 |
|---|-----------------------|-----------------|------|--|
| 1 | 7月21日 18:30~20:30 | ICTパーク | 10名 | <ul style="list-style-type: none"> ●旭川市の強み・弱み 機会・脅威等を分析 ●10年後(2030年)の 旭川市のあるべき姿 について |
| 2 | 8月26日 18:30~20:30 | 北彩都 ガーデンセンター | 9名 | <ul style="list-style-type: none"> ●市長との意見交換 |
| 3 | 10月18日 18:30~20:30 | フィール旭川 | 8名 | <ul style="list-style-type: none"> ●意見のとりまとめと ブラッシュアップ |

3

議論の経過

① 旭川の現状についてのSWOT分析

Strength (強み)

- ・四季がはっきりしていて自然が豊か
- ・ほどよく都会ほどよく田舎で暮らしやすい
- ・空港があり首都圏からのアクセスが容易
- ・ものづくりの技術や高度な医療福祉がある
- ・ポテンシャルや伸びしろを秘めている など

Weakness (弱み)

- ・街に人がまばらで元気や活気が足りない
- ・進学や就職で若者が市外へ流出してしまう
- ・ITの活用が進んでおらず発信力が弱い
- ・買物公園通りを活かしきれていない
- ・若者が遊べる場所がない、車がないと不便
- ・旭川に自信を持っていない人が多い など

Opportunity (機会)

- ・今津市長の就任で新しい風が吹いている
- ・ユネスコデザイン都市に認定された
- ・市制100周年、買物公園50周年などの節目
- ・コロナ禍で脱首都圏の流れが加速
- ・SDGs、IT活用、DX化などの時代の流れ
- ・スケボー競技などへの注目の高まり など

Threat (脅威)

- ・全国的な人口の減少や出生率の低下
- ・若者の流出による地域の高齢化や過疎化
- ・コロナ禍での様々な制約
- ・外の資本流入による地場産業への影響
- ・後継者難、建物老朽化等のプレーキ的要素 など

4

議論の経過

② 2030年（10年後）の旭川に必要なことは？

- 若者が休日を楽しめるまち
- 自然×観光×IT
- すべての人が自由に表現でき、つながりあえるまち
- まちの魅力のPR強化、インフルエンサーを増やす
- 今あるものを活かして新たな魅力を創る
- 守りの姿勢から攻めの姿勢への発想転換

など

5

議論の経過

③ 市長との意見交換

あさひかわの可能性は
無限大∞！

市長が若者に
求めることや、
市長が若者に対して
考えていることは？



- 失敗を恐れずやってほしい！
- 旭川をあきらめないで、期待してほしい！
- チャレンジしたいと思えるまち、チャレンジできるまちにしたい
- 若者の挑戦を大人が後押ししていききたい！

6

若者分野が考える2030年の旭川のあるべき姿

強み・機会を活かし、弱み・脅威を新たな魅力へ転換

時代の変化や波に自ら乗っていく

まちの可能性を信じる



若者たちがいきいきとチャレンジし活躍するまち！

7

提言 ①



#発動！あさっぴーちゃんねる。

<背景と想い>

- 旭川には「何もない」とは言わせない！市民が旭川の魅力を自信満々に語れるようになりたい
- SNSの使い方がもったいない！もっとYouTubeやTikTokを目的別にフル活用できる余地がある

<アイデア>



- 旭川市公式YouTubeの“サブチャンネル”を作り「プロフェッショナル～旭川市民の流儀」「あさっぴーがギネスに挑戦」など、旭川に興味をもってもらえるような動画を発信する
- 今注目のVtuber(バーチャルYouTuber)を作って話題性を高める



旭川のディープな魅力を再発見&新たに創り出す
旭川を「語れる」旭川市民になることがまちの活力・魅力につながる

8

提 言 ②

#あんな夢こんな夢「旭川もしもボックス」

<背景と想い>

- 言う機会がないだけで、旭川のことを真剣に考えている若者はけっこう多い！
- いつでも考えをオープンに語り合える場と、その声が行政側に届くしくみが必要！
- 飲食店に同席した人や市政に関わる職員が入り交じって旭川の未来を語り合えたらおもしろい！

<アイデア>



- 旭川で実現できたらいいなと思うこと気軽に言える「もしもボックス」を居酒屋や街角に設置する
- 居酒屋にてその場で出会った人とまちづくりの話をする（例：ごきげんようサイコロのような感じで）
- 今津市長がときどきサプライズでその場に現れ、一緒になって旭川の未来について語りあう（例：「今津市長の、あなたの意見いただきます！」）



声が届く実感があれば「言ってみよう」「やってみよう」という気持ちになる
若者が自ら意見を出し、それを実現することで自信やまちの活気につながる

9



10

提言 ③

買物公園通りイノベーション3.0

<背景と想い>

- ・ 現状は道路としての規制がありできることが限られている
- ・ 買物公園の「立地・形状などの特徴」×「知恵・アイデア」=まちの賑わいの起爆剤になる！

<アイデア>



- ・ 買物公園通りの中に春・夏・秋・冬を表す色彩や植栽を使っていくつかのコンセプトゾーンを作り、「行けば誰かに会え、語り合える」「何かやりたくなる」よい意味での「居場所・たまり場」にする
- ・ スケートボードエリア、路上パフォーマーエリアなど現状では制限されているものについても、ルールを作って指定の時間や曜日のみ解禁するなどしてカルチャームーブメントをつくる
- ・ 祭りを興す、芝生ロード、滑り台、ロング綱引き…など市民のアイデアを実現できる仕組みを作る



行けばワクワクできる空間になることで人が集まり何かが生まれる
旭川の顔である「中心部の賑わい」=「まちの賑わい」になる

11

提言 ④

わかもん×デザイン=みらい無限大∞

～ワクワクを加速させる旭川式デザイン教育～

<背景と想い>

- ・ 旭川市がユネスコデザイン都市に認定されたことは世界に誇れるすごいこと！
- ・ もっと長期的な視点で幼少期からデザイン思考について触れ、学ぶ機会を創出してはどうか？
- ・ “デザインのカ×○○”によって“魅力的なまち旭川”が実現できるのではないか？

<アイデア>



- ・ 「見て・触れて・遊べる」デザインミュージアム（ものづくりのプロセス展示や体験型の学び）
- ・ 旭川式デザイン英才教育（デザイン思考を身につける教育を幼稚園や学校の授業に導入）
- ・ “旭川＝動物園”のイメージを活かして町じゅうの標識や公共の場所にどうぶつデザインを入れる
- ・ 世界のデザイン都市との交流やデザイン関連分野で活躍する方との交流の機会を作る



若者が新しいことに挑戦できる土壌を育み、
旭川から多くの魅力が生まれ、世界に発信し繋いで継いでいく

12

おわりに

人口減少少子高齢化によりどの自治体も若手が不足している現状がありますが、一時的なものではなくこれから何十年も先まで続いていくものです。どのまちでも人口が、若者が増えるために何をすればよいかを考えており、いわば奪い合いともいえる状況です。

いつの時代も若者が活躍するまちには勢いがあります。若者たちが夢を描き、体現できる。そんなまちの風土のベースを我々の世代が創り、後世に引き継いでいくことで継続的に勢いのあるまちを実現します。

13



14

旭川未来会議 2030

環境分野テーマ

未来のためのサステイナブルな街の実現

2022年11月1日
環境分野

1

環境分野別会議のテーマ

サステイナブルな街の実現に向けて・・・

3つのテーマを設定

- ゼロカーボンシティ旭川を目指して
- ゼロウェイストタウンを目指して
- 自然との共生を目指して

2

テーマ設定の理由



ZERO CARBON
HOKKAIDO
ASAHIKAWA

● ゼロカーボンシティ旭川を目指して

国や北海道が二酸化炭素の実質排出ゼロを目指す中、旭川市が表明した「ゼロカーボンシティ」を2050年までに実現するためには、2030年までに土台作りに取り組むことが重要。



● ゼロウェイストタウンを目指して

社会全体で循環型社会の形成を目指す中、ごみの埋め立てなどによる環境負荷に対する低減を図るためには、市民みんなで未来を見据えてごみの減量に取り組むことが重要。



● 自然との共生を目指して

市民が自然と共生し心地よく過ごすためには、旭川市の環境における現状を知り、緑の大切さや役割を考えることが重要。

3

環境分野 参加者・会議経過

参加者

※五十音順

○朝倉 優美香 ○鹿島 浩平 ○菊池 佳 ○北沢 侑也 ○久保 澄佳
○佐藤 靖隆 ○中村 和子 ○橋口 新平 ○藤山 大樹 ○吉田 小夏

| 回 | 日時 | 場所 | 参加者数 | 議題・内容 |
|---|-----------------------|---------|------|---|
| 1 | 7月21日 18:30~20:30 | 旭川市第二庁舎 | 9人 | ・分野設定 ・分野別議論① (・食品ロス ・ごみ廃棄物 ・交通) |
| 2 | 8月8日 18:30~20:30 | 旭川市第二庁舎 | 9人 | ・分野別議論② (・エネルギーとゼロカーボン ・自然環境 ・環境教育) |
| 3 | 10月12日 18:30~20:30 | 旭川市第二庁舎 | 6人 | ・意見の取りまとめ |

4

ゼロカーボンシティ旭川を目指して①

① 地産地消エネルギーの活用

- 地産地消エネルギー創出の可能性を官民連携で検討
- 上川地方の市町村と連携し，再生可能エネルギー資源の可能性を調査
- 地場の再生可能エネルギー資源の有効活用のため，エネルギーの地産地消を検討



5

ゼロカーボンシティ旭川を目指して②

② 脱化石燃料

- 公共施設で使用する燃料の脱化石燃料
⇒灯油，石油よりもCO₂排出量が少ないガス，電気，木質バイオマスへの転換
- 公用車のEV化（電気自動車化）
⇒公用車をEV化すれば，EVが広く市民に浸透



6

ゼロカーボンシティ旭川を目指して③

③ クリーン交通の推進

- 高齢者，若者にやさしい公共交通機関の整備（早い，安い，きれい，便利）
- 歩きたくなるまち，自転車に乗りたくなるまち
- バス会社と連携し二酸化炭素を排出しないゼロエミッション車（ZEV）を公共交通機関へ導入
- 相乗りタクシーのシステムを導入し，エネルギー効率を高めた交通システムの構築

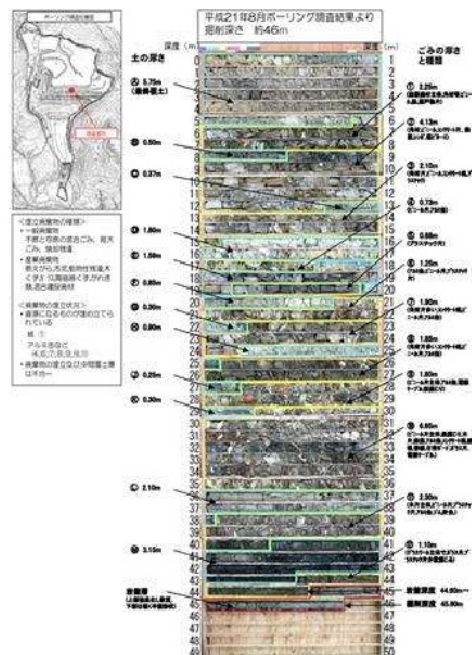


7

ゼロウェイトタウンを目指して①

① なぜ、ゼロウェイトなのか

- 埋立地は，100，1000年後の未来世代に引き継がれる**負の遺産**
- 緑豊かな**春志内に新たな最終処分場建設**
- 蓄えられるゴミは**15年分**
100年後には，**また7の処分場**



8

ゼロウェイストタウンを目指して②

② なぜ、ゼロウェイストなのか

「旭川市の廃棄物処分場設置の歴史」より引用

「江丹別って最終処分場のある、あのカラスのいっぱいいるところ」と旭川市民に思われていた。しかしその原因は、町から運ばれてきたごみである。」

「30年前ころ、市街から江丹別に戻るとき生臭いにおいがして、気分が悪くなった。こんなに自然豊かな山の中で、どうしてこんなにおいがするのかと本当にがっかりしたものだ。」

施設の衛生環境は大幅に改善しているが、埋立地が半永久的に残り続けるのは事実。自然豊かな旭川にあといくつの埋立地を次世代に残すのだろうか？

9

ゼロウェイストタウンを目指して③

③ なぜ、ゼロウェイストなのか



10

ゼロウェイトタウンを目指して④

④ ゼロウェイトタウンの事例（徳島県上勝町）

- 持続可能なだけでなくコスト削減
- サスティナビリティは優れた観光地の絶対条件【観光振興】
- 移住者は、よりサスティナブルで本質的な街へ【移住促進】



11

ゼロウェイトタウンを目指して⑤

⑤ 具体的なアクション

ゼロウェイト宣言

- ・旭川市としてのビジョン策定
- ・達成に向けたロードマップ作成

REDUCE / REUSE / RECYCLE

- ・生ゴミのコンポスト義務化
- ・店舗のリターナブル容器の定着化・量り売りなどの推進
- ・マイボトル推進やアイコンニックな給水所の設置
- ・リペアイベントや、フリマ、シェアリングエコノミー推進プロジェクト
- ・緑のごみ袋をなくそう

12

ゼロウェイストタウンを目指して⑥

⑥ 食品ロスの削減

- 旭川の家庭ごみの3割以上を占める生ごみを減らしたい！
- 街中に環境スポットとなる拠点を設置（※以下の機能を付与）
- フードバンク活動の市民への周知と活用促進
- 規格外品や未利用食品を必要とする人や事業者につなげる仕組づくり
- 飲食店などで利用者が楽しく前向きに取り組める食べ残し対策の検討



13

自然との共生を目指して①

① 自然・野生生物との共生

- 自然と人の集まる森のようなまち
- 市民一人一人が野生動物との関係性を考える
- 未来を見据えた森林や河川などの開発
- 森林の育成
- 外来種の防除，生物多様性の保護



14

自然との共生を目指して②

② 都市と自然の調和～子どもからお年寄り、ペットにもやさしい街づくり～

- 北彩都ガーデンのような公園を増やす
- 買物公園の緑地化
⇒買物公園に芝生のルートをつくる



15

目指す姿を達成するための学習や情報発信について①

① 体験型学習

- ごみ処理場等の見学会
- 外来種ウチダザリガニ・アズマヒキガエルの防除体験

⇒体験型学習で実生活との関連性を学ぶことにより意識付けが図られ、自分たちの環境を守ろうと行動する意欲が出る。



16

目指す姿を達成するための学習や情報発信について②

② 情報発信

- SNSや街頭モニターでの情報発信の強化
 - ⇒CO2やごみの排出量などについて、視覚的な情報を流すことにより日常的に環境に関心を持つ
- 学校と連携した環境教育
- 市民・NPO・行政の輪
 - ⇒一緒に集まり学ぶ、共同で作り上げるイベント、共に話し合う機会の創出



17

目指すまちの姿（2030年に向けて）

- ・現在、日本全国の市町村がゼロカーボンを表明している中、旭川市が先陣を切って取組を進めることでモデルケースを目指したい！
- ・100年後、1,000年後の未来に、ごみの埋め立てという負の遺産をできるだけ残さず、自然豊かな旭川を守るためにごみを減らしたい！
- ・都市と自然の調和を図る中で、緑があふれる市民の憩いの場を増やし、街を訪れる人に対しても観光スポットとしても活用したい！
- ・「サステイナブル」は、今や観光施策や移住施策においても重要な要素。たくさんの方が訪れたい街、住みたい街づくりを進めたい！

18

目指すまちの姿（未来に向けて）

最後に・・・未来に向けて私たちはこう考えます。

**市民一人一人が環境のことを知り考え、住みやすく
魅力あふれる持続可能な街づくりを進め、未来に自
然豊かな旭川を残していきたい！！**

旭川未来会議 2030

子育て分野テーマ

(仮称) あさひかわおやこひろばについて

2022年11月1日
子育て分野

1

子育て分野別会議のテーマ

テーマ (仮称) あさひかわおやこひろばについて

(仮称) あさひかわおやこひろばとは

妊娠期から乳幼児期までの子育てについて、一体的で切れ目のない支援を行うことを目的とする「子育て世代包括支援センター」の機能を持つ『おやこ応援課』に、親子での遊び場などを併設し、誰もがアクセスしやすい市中心部（ツルハ旭川中央ビル2階）に設置することで、保護者の悩みや不安に寄り添い、子育ての負担を軽減するとともに、児童虐待の予防や早期発見などを図るものです。

- 施設全体について
- 遊びの空間について（機能，設備，玩具，図書等）
- 愛称について
- 将来的に付加する機能やイベントについて

2

子育て分野 参加者・会議経過

参加者

※敬称略, 五十音順

會田 さやか | 小林 香澄 | 早川 由理 | 松澤 美沙 | 丸山 恵理 | 山田 寛 | 吉田 育子

| 回 | 日時 | 場所 | 参加者数 | 議題・内容 |
|---|----------------------|----------------------|------|---|
| 1 | 4月27日 18:45~19:30 | 子ども総合相談センター | 5人 | ・ツルハビル見学 ・施設全体について |
| 2 | 5月30日 17:30~18:45 | 市民活動交流センター CoCoDe | 7人 | ・愛称について ・遊びの空間について ・将来的に付加する機能や イベントについて |
| 3 | 6月17日 18:30~20:20 | 子ども総合相談センター | 4人 | ・意見の取りまとめ |
| 4 | 7月1日 18:30~19:10 | 秘書課 第2応接室 | 5人 | ・市長への報告 |

3

子育て分野の皆さんが考えた（仮称）あさひかわおやこひろば

愛称

旭川市子育て世代包括支援センター

- わくわく, 安心, 子育て, 旭川のアルファベット表記の頭文字と「若葉」を組み合わせた。
- 子どもには若葉のようにすくすく育ってほしい, 親には子育てを楽しんでほしいという思い。
- 「ba」には, 保護者や子どもにとって安心できる居場所となるようにとの思いを込めている。
- ロゴでは, 「waka」の文字をそれぞれの言葉をイメージできる色で表現。
- waka・baが親子にとっての栄養になるようにとの願いを込め, 「若葉」と「水をあげるじょうろ」のイラストを添えた。

全般

安全・安心で行きやすい

健診や相談を気軽に

みんなで子育て

将来的な 機能・ イベント

民間・利用者・行政が効果的につながり,
子育てに安心と楽しさと自信を感じることができる取組 など多数

4

旭川市子育て世代包括支援センター waka・ba (概要)

旭川市子育て世代包括支援センター

waka・ba

令和4年10月1日にオープンしました！

所在 ツルハ旭川中央ビル 2階
(旭川市1条通8丁目187番地1)

面積 1,257.48㎡ (380.39坪)

機能

- およこ応援課執務室
- 健診・相談スペース
- プレイルーム

開業時間 午前8時45分～午後5時15分
※土日祝日，年末年始除く。



5

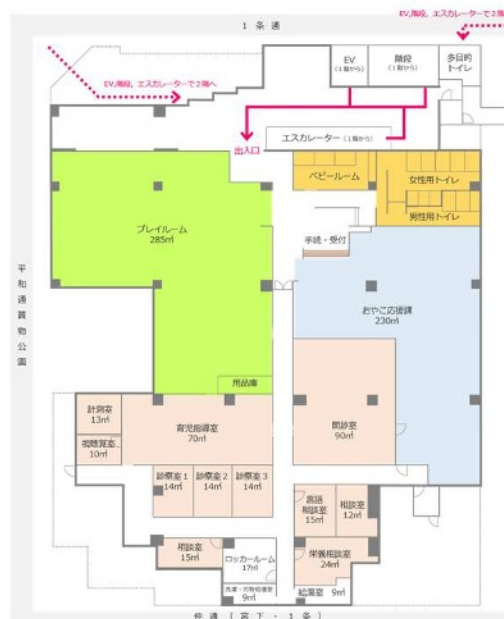
旭川市子育て世代包括支援センター waka・ba (レイアウト・機能)

プレイルーム

明るくやさしい雰囲気的空間とし、当面は乳幼児健診の待合スペースとして使用する。

健診・相談スペース

4か月，1歳6か月，3歳6か月の各乳幼児健診のほか，幼児健康相談や発達支援相談（未就学児）などを行う。



ベビールーム・トイレ

- おむつ交換台，授乳室，調乳用温水器
- 幼児用トイレ3ブース（女性用）

およこ応援課

- 母子健康手帳の交付
- 赤ちゃん訪問
- 産後ケア事業
- 産前・産後ヘルパー事業
- 地域子育て支援拠点/地域子育て活動支援
- うぶごえへの贈りもの
- 児童虐待予防・早期発見（妊産婦等訪問）

6

意見と反映状況（施設全体）



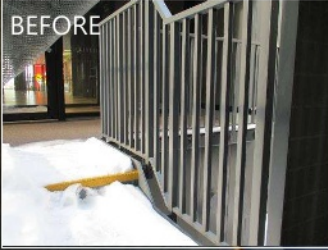
7

意見と反映状況（施設全体）



8

意見と反映状況（施設全体）



隣接する立体駐車場との連絡通路

- ・手すりや床のすき間をふさぎ、子どもが手足を出したり、ものを落としたりしないように配慮
- ・双子や大型ベビーカーなど、サポートを必要とする利用者のためにインターホンを設置

9

意見と反映状況（施設全体、将来的に付加する機能やイベント）



旭川産木製玩具の設置

- ・木製スロープ玩具の研究、製作に取り組む旭川農業高校の協力により、大小3基の木製スロープ玩具を借用して設置。

10

意見と反映状況（将来的に付加する機能やイベント）

民間と連携した子育て支援の取組

プレイルームの土日の活用

の検討に向けたテストイベントとして、

安心 わくわく 子育て応援の日

ミンナーデ

Minna-Day

開催概要（案）

開催日

11.27 sun / 12.18 sun

場所

旭川市子育て世代包括支援センター
wakaiba

対象

就学前の子どもと保護者

内容

安心子育て紹介・体験ブース

子育て支援に関わる活動を行う個人や団体のブースを設置し、活動（支援）内容を体験できる。自分の悩みや不安に寄り添ってくれる人や場所があることを知ることで、子育ての負担軽減を図る。

アソボーフェスタ

日本玩具協会との協力・連携により、玩具メーカー提供のおもちゃのサンプルで自由に遊べる。子どもの育ちに欠かすことができないおもちゃとの関わりを通じて、心身の健やかな成長を図る。

11

反映できていない意見

検討中

図書館で借りた本の返却ポスト → 全市的な返却場所のバランスなどを踏まえて、中央図書館と協議を進めます。

実施不可

荷物を入れるロッカーの設置 → 活動スペース確保のため、ロッカー設置を見送り、個別のかごで対応しています。

今後も、未来会議での意見や提言のほか、利用者の声を聞き、

自分の子育てに安心と自信がもてるまち

に向けて、“できること”から取組を進めていきます。

12